

「見上げてごらん夜の星を」

坂本九さんが 1963 年に歌って大ヒットした、日本を代表する名曲ですね。

元々はミュージカル「見上げてごらん夜の星を」の挿入歌で、作詞は永六輔さん、作曲はいずみたくさん。戦後の混乱の中で、人々に希望や優しさを思い出させるような歌詞とメロディで、多くの人に愛され続けています。

夜空を見上げるというシンプルな行為を通して、

- つらい時でも前を向くこと
- 互いに支え合うこと
- 希望を持ち続けること

そんなメッセージがやさしく伝わってくる曲です。

最近でも、災害時や卒業式、合唱コンクールなどで歌われることが多いですよね。

1. 生まれはテレビドラマではなく舞台劇

- 元々は 1960 年、劇団「東京放送劇団」による中学生向けの音楽劇『見上げてごらん夜の星を』のために作られた曲です。
- 作詞: 永六輔、作曲: いずみたく。
- 戦後間もない日本で、貧しさや不安を抱える若者たちが「夜空を見上げる」ことで希望を見出すという物語でした。

2. 坂本九による歌で全国的ヒット

- 1963 年、坂本九さんがこの曲をシングルとして発売。
- 彼の温かい歌声とやさしいメロディが人々の心に響き、大ヒット。
- 当時の日本は高度経済成長期に入りつつも、まだ戦争の記憶や貧困が残っていました。
- 歌詞は、そうした時代の空気の中で「小さな幸せを大事にしよう」というメッセージとして広まりました。

3. 歌詞の持つ意味と永六輔の思い

- 永六輔さんはこの曲を「小さな希望の歌」と呼んでいました。
- 「星=希望」「見上げる=前を向く」というシンプルな構造。
- “幸せ”を大きな夢や成功ではなく、隣にいる人や身近なつながりの中に見出すことを伝えています。

4. 災害時・復興の象徴として

- 阪神淡路大震災(1995年)や東日本大震災(2011年)の後、この曲が追悼式や復興イベントでよく歌われました。
- 理由は「励ます」よりも「寄り添う」メッセージが強く、悲しみを抱えた人の心に自然に入っていくから。

5. 合唱曲としての広がり

- 小中学校の合唱コンクールの定番曲に。
- 大人だけでなく、子どもたちも歌いやすいメロディと、覚えやすい歌詞が人気の理由。
- 海外でも合唱曲として紹介されることがあります。